

第30回全国城下町シンポジウム松本大会

「城下町宣言」

社団法人松本青年会議所

第30回全国城下町シンポジウム松本大会 「城下町宣言」

遡ること400年。かつては、それぞれの地域の中心であった城下町。地域と時代を牽引する存在であった城下町。そこで育まれてきた文化・風土は、いずれもその地域ならではの特色を確立し、それぞれの文化圏において独自の発展を遂げてまいりました。まち同士の境目、いわば「まちの輪郭」が明確な時代だったと言えます。

今回お集まりいただいた松本も、市民の努力によって守られた松本城を中心に、市民運動で育まれた歴史・文化などで「まちの輪郭」を描いてきました。

しかしながら、時代と共に押し寄せたグローバル化の波に伴い、地方の城下町も経済・文化など、多方面にわたるグローバルな価値観とは無縁でいられてなくなっています。この流れは、国内における大都市圏と地方都市という二極化を押し進め、今まで明確であった「まちの輪郭」を薄めていきながら、今後ますます加速するでしょう。

私たちがまちづくり運動を実践する舞台の城下町は、紛れもなくローカル＝地方都市です。今後私たちが持たなければならない意識は、この「ローカルの場」にあってなお、「グローバルな視点」を持つ、「グローカル」という意識です。このグローカルという意識こそが、ローカルにおけるまちづくり運動を実践していく上でとても重要になるはずです。

グローバルだけでなく、ローカルだけでもない「グローカルな意識」を忘れずに城下町としての個性を保ち続ける、いわば「グローカル城下町」として進んでいくことこそが、先人たちが私たちに遺してくれた城下町固有の文化・風土を、次世代に継承する重要な手がかりだと考えます。

本大会では「城下町復権」のテーマの下、全国から城下町に住む仲間たちがこの松本に集い、分科会・情報交換会・全体会議などを通じて、問題意識の共有と情報の交換を行いました。この「城下町復権」というテーマは、「かつて城下町が持っていたと考えられる強い求心力を再び取り戻そう」という思いで掲げたものであります。

各分科会では、「地方都市の国際化」・「植樹を通じた地域づくり」・「地域の個性に対する市民活動の取り組み」・「城下町だからこそできる観光」をテーマに話し合い、活動実践報告などが行われました。

ここで得られた情報を、みなさんが自分の地域に持ち帰り、グローカルな意識を持ちながら「まちづくり運動」を展開していただければ、グロー

バル化の中で薄らぎつつある自分たちの「まちの輪郭」を再びしっかりと描くことができ、結果的にそれぞれの地域における「城下町復権」が必ず実現します。そして地域と時代を牽引する存在になれるはずです。地方都市全体の個性が再び輝きを取り戻すことにより、私たちが暮らす地方から全国に向けて明かりを照らす、そんなまちづくり運動を継続していこうではありませんか。

私たち日本人は、近現代において幾度にも渡り大きな変化を乗り越え、国づくり、地域づくりを行ってきました。日本が近代国家に生まれ変わるきっかけとなった明治維新。焼け野原からの復興となった第二次世界大戦の敗戦。そのたびに私たちの先輩方は、その先にある未来に向けて歩を進めてきました。本年3月11日、国土の広範囲を襲った東日本大震災は、まちづくり運動を含め、自分たちの価値観を今一度見つめ直し、次の時代に歩を進める機会となりました。

1982年、松本で産声を上げた「全国城下町シンポジウム」も本大会で30回を数えます。私たちの世代は、先輩方が作り上げてきた「まちの輪郭」の中で育ち、自分たちにとって当たり前のように「まち」という存在がある中で運動を続けてきました。

先輩方が火をつけ、この30年あかあかと燃やし続けてきた「まちづくり」という松明の火は確実に私たちに引き継がれました。今後さらに城下町同士が積極的に横の連携を取り、刺激を与え合うそんな存在になれるよう、「まちづくり」の松明の火をより多くの人に広げましょう。

地方都市がグローバルな意識を共有し、まちの輪郭をしっかりと描く「城下町のまちづくり」への歩みをさらに一歩進め、地域と時代を牽引する存在を目指すことを誓い、本大会の城下町宣言とします。